

## 【国語】 <小学校 第5学年>

○は十分身に付いている力

●は課題となっている力

以下同じ。

### 1 結果のポイント

- 「話すこと・聞くこと」については、分かりやすく伝えるために、どのような話し方の工夫がされているかを正しく聞く力をみる問題などで正答率が80%を上回っている。
- 「書くこと」については、考えを分かりやすく伝えるために立場や理由をはっきりさせて書く力をみる問題などの正答率が80%を上回っている。
- 他方、読み取ったことを手がかりに主人公に対して伝えたいことを整理して書く力をみる問題の正答率は50%程度である。
- 「読むこと」については、主人公の気持ちを想像しながら読む力、表現の特色に注意しながら読む力をみる問題などの正答率は80%程度である。
- 他方、主人公の気持ちの変化に注意しながら読む力をみる問題の正答率は60%程度である。
- 「言語事項」については、必要な語句について辞書を利用して調べる力、漢字を正しく読む力をみる問題などで、多くの問題の正答率が90%を上回っている。
- 他方、漢字を正しく書く力をみる問題では正答率が60%程度であり、50%を下回っているものもある。

### 2 結果の分析

#### (1) 分かりやすく伝えるために、どのような話し方の工夫がされているかを正しく聞く力をみる問題の例（「聞く能力」）

<問題> ㊦の二

- 二 大森さんのスピーチのよい点を、次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。
- ア いろいろな図や表を使って、具体的に話している。
  - イ 参考となる先生の意見を取り入れて話している。
  - ウ 友達に行ったアンケートの結果を取り入れて話している。
  - エ 自分の考えを先に述べ、そのあとに理由を話している。

<結果> 正答率 97.2% (正答…エ)

<分析>

この設問は、大森さんが効果的な1分間スピーチをするために、どのようにスピーチの組立てを工夫しているかを理解しながら聞く問題である。正答であった児童は、スピーチの構成をとらえ「意見」「理由」の二つの内容を正しく聞き取るとともに、話の組立てを理解しながら聞くことができたと考えられる。昨年度の類似問題の正答率は92.5%で、5%程度正答率が上がっており、昨年度と同様に「聞くこと」の力が身に付いていると考えられる。

#### (2) 主人公の行動や気持ちをもとに、主人公に対して伝えたいことを決められた字数で書く力をみる問題の例（「書く能力」）

<問題> ㊦の四

- 四 この物語を読んで、あなたは晶に対してどのようなことを伝えてあげたいですか。晶の行動や気持ちを文章中から取りあげ、晶に対して伝えてあげたいことを五行以上六行以内で書きましょう。

<結果> 正答率 49.6%

<分析>

この設問は、物語の内容から主人公について自分の考えをもち、伝えたいことと根拠となる文を関連させて書く力をみる問題である。正答であった児童は、初めに主人公の心情を取り上げ、そこから自分の体験を書いたり、主人公の心情に共感した気持ちを書いたりすることができていた。誤答には、自分の体験だけが書かれ、主人公の心情と自分が伝えたいことを整理して書くことができていないものが多かった。また、無解答の割合が14.2%で、他の設問と比べると高い状況であった。今後、自分の考えを明確にし、必要のある事柄を整理して書く力を育てる指導が必要である。

(3) 主人公の気持ちを想像しながら読む力をみる問題の例(「読む能力」)

<問題> ㉓の一

- 一 この物語の最初に「こんな新学期をむかえたのは、はじめてだった。」とあります。そう思ったときの晶の気持ちに当てはまるものを、次のア～エの中から一つ選び、その記号を□の中に書きましょう。
- ア 学級代表が決まるまでに時間がかかり、とてもいらいらした気持ちになった。
  - イ 竹中先生とけんかをしてしまい、先生に会うのがつらい気持ちになった。
  - ウ 高沢高志がほとんど票をひとり占めして、うらやましい気持ちになった。
  - エ 一学期の学級代表に選ばれず、自分でもよくわからない気持ちになった。

<結果> 正答率 80.4% (正答…エ)

<分析>

この設問は、主人公が学級代表に選ばれなかったときの心情を読み取る力をみる問題である。正答した児童は、予想していなかった状況に置かれ、傷つけられたような、せいせいしたような主人公の心情を文章全体を通して理解していると考えられる。誤答で多かったものは、ウである。主人公がとまどい、よく分からなくなった心情を読み取れず、文中の「高沢高志がほとんど票をひとり占めしていた。」という表現だけにとらわれ、心情を読み違えたと考えられる。また、主人公の心情の変化に注意しながら読む力をみる問題である㉓の二の正答率は、60%程度で他に比べて低い状況であった。今後、表現内容と関連付け、展開に着目しながら心情の変化を読む力を育てる指導が必要である。

(4) 4年生までに習った漢字を正しく書く力をみる問題の例(「言語についての知識・理解・技能」)

<問題> ㉔の(2)(3)

- (2) しりょうを 使って 説明する。
- (3) 学級文集を いんさつする。

<結果> (2) 正答率 68.9% (正答…資料) (3) 正答率 49.4% (正答…印刷)

<分析>

この設問は、4年生までに学習した漢字を正しく書く力をみる問題である。漢字を正しく読む力をみる問題に比べ、全体的に正答率は低かった。設問(2)の誤答の多くは、「資」を「貸」「賃」「貨」など、また、「料」を「科」という形が類似した漢字で書いていた。(3)の誤答の多くは、画数が不足するなど間違った漢字で書いていた。他の設問に比べ(2)の正答率がよかった要因としては、日頃の学校生活の中でよく書かれている漢字であることが考えられる。逆に、「印刷」という漢字は、日常生活でほとんど書く機会がないため定着していないと考えられる。今後、繰り返し練習をするとともに、日常生活で意図的に書く場を設定するなどの指導を充実させる必要がある。

### 3 分析を踏まえた指導の改善

#### (1) 指導計画の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、話の組立てや言葉に注意して話し手の意図を考えながら聞く力を育てることが重要である。そのためには、年間指導計画に「聞くこと」に関する指導事項の「イ 話し手の意図を考えながら話の内容を聞くこと」が適切に位置付けられているかを見直すとともに、他の領域の単元で、どのように関連させることができるかを明らかにし、学習した聞き方について児童が日常的に意識できるよう配慮する必要がある。
- ・「書くこと」については、他の指導事項にかかる「ア 目的や意図に応じて、自分の考えを効果的に書くこと」に重点を置く必要がある。そのために、その他の指導事項との関連を明らかにし、例えば、指導事項のイであれば「自分の考えを効果的に書くために、全体を見通して、書く必要のある事柄を整理することができる。」などの単元の目標を設定し、確実に書く力を高めるための改善を図る必要がある。
- ・「読むこと」については、文学的な文章における登場人物の心情の変化に注意して読む力を高める必要がある。そのために、年間指導計画に指導事項の「ウ 登場人物の心情や場面についての描写など、優れた叙述を味わいながら読むこと」を位置付けた単元のうち、登場人物の心情と場面の関係を指導することを重点に置く単元を明らかにし、単元の目標や評価規準を適切に設定する必要がある。また、単元の導入時に、児童が登場人物の心情の変化に着目できるよう、場面の移り変わりに重点を置いた学習活動を位置付けるなど、単元構成を工夫する必要がある。

#### (2) 指導方法の工夫改善

- ・「話すこと・聞くこと」については、目的をはっきりさせ伝えたい内容を明確にする、目的や意図に応じて話したり話し手の意図をつかみながら聞いたりするなどの言語活動を展開することが大切である。そのために、児童が目的を明らかにしやすい話題にするとともに、相手の答えを予想して質問を準備したり、調べて分かったこと、思ったこと、考えたことは何かを聞き取ったりするなど、話したり聞いたりする活動を関連付けた指導方法を工夫する必要がある。
- ・「書くこと」については、考えたことを筋道立てて書くために、取材の段階から目的や意図を明らかにして、文章全体の構成や記述の仕方を考えさせる指導が大切である。そのために、書く目的や意図に沿って材料の収集、選択ができる学習活動を位置付けるとともに、調べようと思った理由・目的、調べたい事柄、調べた内容、まとめ等について、全体を見通して書くことができるように指導を工夫改善する必要がある。
- ・「読むこと」については、文学的な文章における登場人物の心情の変化に注意して読む力を高めるために、児童に物語の展開を十分意識させ、どのように心情が変化していくかを考えさせる学習活動が大切となる。また、文章の必要な部分を詳しく読んだり、優れた表現を視写したりする活動を重視することにより、根拠を明らかにして心情を考えることができるよう、指導方法を工夫改善する必要がある。
- ・漢字を正しく書く力を高めるために、繰り返し練習を行うとともに、書く活動や他の教科においても学習した漢字を使用することのよさが実感できるよう、児童の取組のよさを価値付けたり広めたりすることが大切である。

#### (3) 学習環境の工夫、学習集団の育成等

- ・表現したり理解したりするために必要な語句について、日常的に国語辞典を利用して調べる習慣を身に付けるように、身近に辞書を整備するなど学習環境を整え、活用の機会を意図的に設定するようにする。また、学校図書館における本の分類や検索の仕方の学習を位置付け、学校図書館の利用指導や環境整備を行い、児童が日常的に学校図書館を活用できるよう配慮する。
- ・国語の授業を通して身に付けた言語能力を、総合的な学習の時間や学校生活の中でも積極的に発揮しようとする、国語に対する興味・関心の高い学習集団を育成することが大切である。